

想
い
を
つ
な
ぐ



運ぶ



届ける



つなぐ



公益社団法人 福島県トラック協会



暮らしを支え、想いをつなぐ トラック輸送



日本の物流を支えているトラック輸送。

もしもトラック輸送が止まってしまったら
あらゆる場所に“モノ”が届かず
社会全体に大きく影響します。

食料品や医療用品、建築資材など
多くの人に関わるものから
ひとつひとつの小さな荷物まで
そこには、作った人や送る人の“想い”が
込められています。

その想いを「運び、届け、つなぐ」ために
私たちは仲間と協力し、支え合い
トラックを走らせています。





暮らしに欠かせないトラック輸送

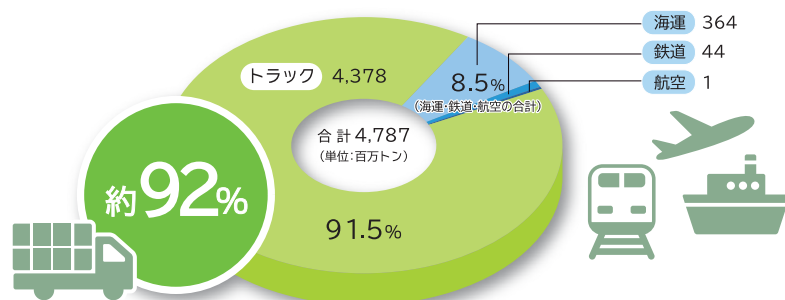
日本国内の物流のほとんどを担うトラック輸送。
個人宅配から大型資材など、あらゆるものを運んでいます。



国内輸送の約9割

“モノ”が生産者や工場から私たち消費者のもとに届くまでの流れのことを「物流」といいます。そして、日本の物流を支えているのが「トラック輸送」です。

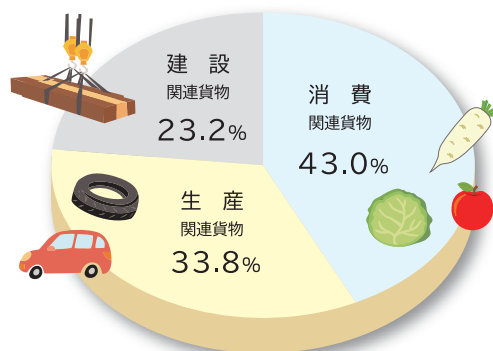
2016年度に日本国内で運ばれた貨物の量は、約48億トン。トラック輸送は、このうちの約92%を占めており、日本の貨物のほとんどをトラックが運んでいることになります。



輸送機関別分担率 (2016年度) トンベース

資料: 国土交通省

第4のライフライン



営業用の品目別輸送トン数の構成比 (2016年度)

資料: 国土交通省

消費	農水産品・食料品・日用品など
生産	金属・機械・石油製品など
建設	工事現場などでの建設資材

■もしもトラックが止まったら？

コンビニエンスストアでは、陳列棚から商品がなくなってしまう、病院では、治療に使う薬品や、入院患者の食事やシーツが届きません。工事現場では、建設資材が不足してしまいます。市場では、新鮮な野菜やお肉、魚介類などが届かなくなります。

トラック輸送は、私たちの暮らしを支えるために、なくてはならない存在なのです。

■自然災害などの緊急時にもトラックが活躍

トラック運送業界では、国や自治体と連携し、緊急物資輸送を行っており、2011年の東日本大震災では、発災直後から1万台を超えるトラックが出動し、被災地へ物資を届けました。

トラック輸送は、私たちの安全や生活を支えるのに欠かせないインフラであり、重要なライフラインと言えます。

トラック輸送の現場から

この業界は「40～50代の男性ばかり」というイメージが強いかもしれませんが、近年は男女問わず、幅広い年代のドライバーが活躍しています。



株式会社 帝北ロジスティクス
阿部 昂樹さん／ドライバー歴 1年

車が好きで、大きなトラックを運転することが夢でした。
届け先で多くの人と出会い、つながりがひろがるのもトラックドライバーの魅力です。

トラックドライバーになったきっかけ

父親がトラックドライバーで、子供のころ助手席に乗せてもらい働く姿を目の当たりにして「カッコいい!」と思い、ドライバーに憧れていました。また、もともと車に興味があり、運転に携わる仕事がしたいと思っていました。

ドライバーになる前のイメージと今

計画の立たない休日、業務に追われ休憩すら取れない、きつくて辛いイメージで、「体力のいる仕事」「定年まで続けられるのか」「長時間労働」などあまり良くない印象でした。

実際に働いてみると、他部門の方々ともコミュニケーションが取りやすく、とても和やかな雰囲気です。心配していた、休日や休憩についても充分に取ることができ、とても仕事がしやすい環境です。



仕事のやりがい、今後の夢や目標は?

福島市近隣の企業向け貨物などの集配業務を行っており、配達、集荷先などで感謝の言葉を頂いた時は、この仕事を選んで良かったと思います。地域の皆様が必要としている荷物を運び、生活を支えるための仕事をしていることに誇りを持っています。大型免許取得までの2年間で多くの経験を積み、免許取得後は大型トラックに乗り、全国を駆け巡りたいと思います。

これから目指す人へのメッセージ

トラックドライバーの魅力は、会社から信頼を得て、徐々に大きな車両を運転できるようになることです。今後は自分が学んだことを後輩たちに伝えていきたいです。体を動かす事が好きな方、運転や自動車に興味がある方は、ぜひ一緒に働きましょう!

Time Schedule

1日の流れ





株式会社 丸東
間瀬 まゆみさん / ドライバー歴 5年

もともと運転が大好きで、大型免許を取得し、現在は主に復興に携わる運搬業務です。性別に関係なく、女性でも自分しだいでどんどん活躍できる仕事です。

トラックドライバーになったきっかけ

子育ても終え、すぐにできる仕事はないかと考えていました。もともと運転が好きで、アルバイトで配送の仕事を経験していた事もあり、本格的に仕事をするなら大型トラックの方が良いと思い、大型免許を取得しトラックドライバーになりました。

ドライバーになる前のイメージと今

「男性社会で、長距離輸送を中心に、眠気と闘いながら時間に追われる」といったイメージでしたが、実際には大きく違っていました。男性ドライバーの先輩方には、気兼ねなく質問することができますし、男女差別も無く親しみをもって接してもらい、とても良い環境です。女性ドライバーも増え、休憩時間など和やかな雰囲気でもとても充実しています。



現在、携わっている業務の内容は？

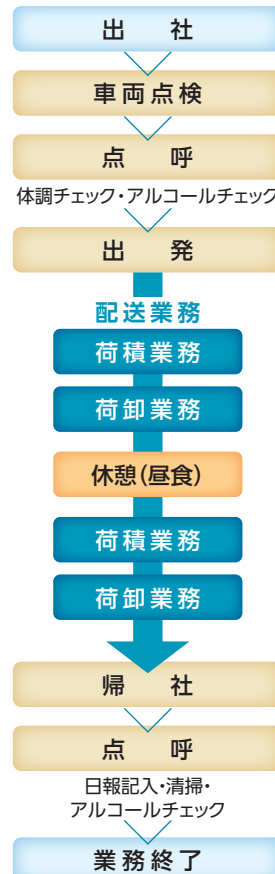
主に復興関連の建設資材の運搬です。現場での指示の声が大きく、怒られているように感じた事がありましたが、安全に作業するためには大きな声での指示が必要なことだとわかり、負けずに大きな声で返事をし、事故を未然に防ぐよう気をつけています。

これから目指す人へのメッセージ

以前のイメージとは違い、規則正しい勤務時間で、時間に追われず自分のペースで走行できます。会社側もドライバーの事を十分考慮してくれており、女性が活躍できる環境が整っています。今後は私自身も自分の経験をフルに活用し、より働きやすい職場を目指しますので、少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです。

Time Schedule

1日の流れ





トラック輸送を支えるために

トラックドライバーを取り巻く環境は、年々進化しており、各企業や専門機関が様々な取組を進め、より働きやすい環境を整えています。

健康で安心して働ける環境

年齢や性別、体力などに関係なく、誰でも安心して働くことができる環境づくりに取り組む企業が増えています。

具体例 A社(南会津町)

震災後の人材不足を契機に、社員が健やかに働くことができるよう、会社全体で「社員の健康づくり」に取り組んでいます。

- シャワー室・仮眠室の設置
- ロボットスーツの導入(腰痛予防対策)
- 年1回の健康診断と全従業員へのインフルエンザ予防接種を実施
- 社内で独自に蓄積したデータ(血圧・体重)をもとに生活改善の指導



実感できるキャリアアップ

個人に合わせたキャリアプランの設定や独自の表彰制度を設け、社員のモチベーションアップを図る企業もあります。

具体例 B社(須賀川市)

社員を会社の宝「社宝」と捉え、様々な教育カリキュラムに取り組み、社員一人ひとりが仲間との一体感を感じながら社会人として成長できる環境を整えています。

- キャリア(新入社員・現場社員・管理者)ごとに、オリジナルの教育プログラムを設定
- 「3年間交通事故ゼロ」等の一定条件をクリアした社員とその家族に表彰状・賞金・副賞を授与
- 全社員(キャリアや役職問わず)による経営計画発表



女性も働きやすく!

女性ドライバーの割合は全体の約2%程度ですが、需要は多く、各企業が人材確保のために環境整備を進めています。

具体例

- 女性専用トイレ・更衣室の設置
- 体力面の考慮(フォークリフト活用・小口貨物の配送など)
- ライフスタイルに合わせた勤務シフトの導入
- 女性幹部の登用



国土交通省が推進する「トラガール促進プロジェクト」

トラガール=女性トラックドライバー

元気に活躍するトラガールを社会に広く発信することで、トラガールを目指す女性の道しるべとなるとともに、経営者や荷主に新しい視点を提供し、業界のイメージ改革を図るための取組です。

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/tragirl/>

トラガール

検索



先進の安全性能

トラックには下記のような安全性能があります。他にも、女性が運転しやすいトラックの開発や、ロボットによる点呼の実用化に向けた取組など、ドライバーの負担や、危険を軽減する技術の開発が進んでいます。

例えば

①車線逸脱警報装置

車体が車線をはみ出しそうになるとドライバーに警告します。

②衝突被害軽減ブレーキ

車間距離が縮まり、衝突のおそれがある場合にセンサーが感知し、作動します。

③デジタル式運行記録計

自動車運転時の速度・走行時間・走行距離などの情報をメモリーカード等に記録します。

バックアイカメラ



バックアイモニター



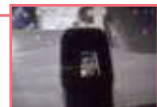
ドライブレコーダ



①車線逸脱警報装置



サイドカメラ



カメラ



ミリ波レーダー

③デジタル式運行記録計



②衝突被害軽減ブレーキ

ドライバーを守る運行管理

運転前に必ず車両の点検・点呼を行います。また、運行管理システムで業務内容を把握し、ドライバーを会社全体でフォローします。



点呼

ドライバーの健康状態や配送予定などの確認をします。

【点呼とは】

運行の前・後に義務づけられており、国家資格を持った運行管理者がドライバーの健康状態の確認や、その日の運行ルートや荷物の種類の確認、業務報告などを行います。



点検

走行時のトラブルを事前に防止するために、必ず点検を行います。



運行管理

運行管理システムを用いて、ドライバーをサポートします。

運転免許について

「準中型免許」を取得（18歳以上で取得可能）することで、宅配便等で活躍しているトラックを運転することができます。また、将来的に中型・大型免許を取得することで、のキャリアアップも可能です。

入社1～2年目

普通免許 ● 一般的な乗用車

準中型免許 ● いわゆる2トントラック



入社3年目

中型免許

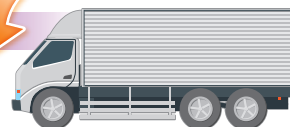
● いわゆる4トントラック



入社4年目以降

大型免許

● 車両総重量や最大積載量の制限なし



※2017年3月12日以降

免許の種類	車両総重量	最大積載量
普通	3.5トン未満	2トン未満
準中型	3.5トン以上7.5トン未満	2トン以上 4.5トン未満
中型	7.5トン以上11トン未満	4.5トン以上 6.5トン未満
大型	11トン以上	6.5トン以上



公益社団法人 福島県トラック協会
<http://fukutora.lat37n.com/>

〒960-0231 福島県福島市飯坂町平野字若狭小屋32
TEL.024-558-7755

